

平成16年 あしたのくらし・ふるさとづくり全国フォーラム

— 日々の活動で未来への扉を開く —

NKK



平成16年度

# あしたのくらし・ふるさとづくり 全国フォーラム



## 表彰式



個性豊かなふるさとづくりに取り組み、今年度のふるさとづくり賞(当協会、読売新聞社東京本社、NHKなどが主催)に入賞した団体の表彰式や、全国各地で生活学校運動、生活会議運動、さらに地域づくりに取り組んでいる団体が、一堂に会し、今後の地域づくり活動の方向を探る「平成十六年度あしたのくらし・ふるさとづくり全国フォーラム」が去る十一月九・十日の両日、全国からおよそ六百人の参加を得て、東京都渋谷区の「国立オリンピック記念青少年総合センター」で開催された。今年度のフォーラムは、これまでに個別開催されていた「豊かなふるさとづくり全国フォーラム」と「あしたの日本を創る運動全国大会」とを統合して初めてのフォーラム。

第一日は、今回ふるさとづくり賞を受賞した団体の活動紹介や地域の活性化に果たす役割などを展望する「ふるさとづくり運動をどうすすめるか」、「シニアの知識や能力等を地域に生かす」、「子育て・親育てのコミュニケーション戦略」などの七分科会を開催。さらに分科会終了後には、「交流のつどい」が開催され、新たな交流をつくる場、さらには旧交を温める場として盛りあがった。

二日目の十日には、ふるさとづくり賞やあしたの日本を創る運動推進功労の表

## パネルディスカッション

決議文・  
申し合わせ  
事項採択

影に続き、パネルディスカッション「これからどうするコミュニティ」が持たれた。このなかで、これまでのコミュニティづくりを概観すると、人間関係が希薄になっていくなかで、イベントなどを開き、人々が顔見知りになる、いわば「親交的コミュニティづくり」は、大きな成果を上げてきた。今、求められているのが、住民が地域課題を発見し、その解決に向けて活動する「自治的コミュニティづくり」で、子育て、高齢者支援などに、地域住民が地域住民のためにきめ細かなサービスを提供していくことの必要性が訴えられた。

なお、今年度のふるさとづくり賞には、内閣総理大臣賞に、福島県の「アネッサクラブ」(集団の部)、岩手と宮城の両県にまたがる三十六の自治体で構成される「北上川市町村流域連携協議会」(市町村の部)、北海道の「北の起業広場協同組合(北の屋台)」がそれぞれ受賞した。内閣官房長官賞には、栃木県の「ゆずの里かおり村」(集団の部)、長崎県「崎戸町」(市町村の部)が受賞。主催者賞には、集団の部で四団体、市町村の部、企業の部で各一団体が、また、振興奨励賞には、集団の部で二十四団体、市町村の部で六団体、企業の部で五団体がそれぞれ受賞した。(各賞の受賞団体は五十二頁〜五十三頁掲載)

平成16年度

あしたのくらし・ふるさとづくり  
全国フォーラム

## 分科会

### 交流のつどい

